

闘え!商大

商大スポーツ

FREE



優秀選手賞に
今村楓(公営1年)

第53回全関西大学
空手道選手権大会
女子組手 **3位**

- 第50回空手道系東会全国選手権大会**
- 大学団体 **3位**
 - 一般男子軽量級
 - 優勝 田代 優馬(経済2年)(鹿児島城西高)
 - 準優勝 平野 皓大(公営1年)(東大阪大学柏原高)
 - 優秀選手 松本 卓也(商学3年)(開新高)
 - 一般男子中量級
 - 3位 杉岡 将平(経済1年)(おかもやま山陽高)
 - 3位 西山 貴明(経済1年)(芦北高)
 - 優秀選手 眞山 尚之(経済3年)(米子北高)
 - 優秀選手 佐藤 延嘉(経済3年)(東大阪大学柏原高)
 - 一般男子無差別級
 - 準優勝 黒川 大和(公営1年)(開新高)
 - 優秀選手 新城 武(平成21年度卒業生)
 - 一般女子
 - 準優勝 釜 ひかり(公営1年)(東大阪大学敬愛高)
 - 優秀選手 今村 楓(公営1年)(東大阪大学敬愛高)
 - 優秀選手 山田 里奈(公営1年)(順頂女子高)

- 第2回関西学生空手道オープントーナメント**
- 男子シニアクラス
 - 3位 西山 貴明(経済1年)
 - 女子シニアクラス
 - 3位 平島 亜梨沙(公営3年)(大島北高)
 - 男子エクセレントクラス
 - 優秀選手 今村 楓(公営1年)
 - 優秀選手 岡本 太郎(公営2年)(おかもやま山陽高)
- 第53回全関西大学空手道選手権大会**
- 男子団体組手
 - ベスト8(2回戦敗退)
 - 女子団体組手
 - 3位 優秀選手 今村 楓(公営1年)
- 第54回全日本大学空手道選手権大会**
- 男子団体組手
 - 3位 優秀選手 松本 卓也(商学3年)
 - 女子団体組手
 - ベスト8

何が何でも
勝負!

第54回全日本大学 空手道選手権大会 男子団体組手 **3位** 空手道部

優秀選手賞に
松本卓也(商学3年)

女子組手はベスト8に。



平成 22年11月 21日(日) 日本武道館(東京)で行われた第54回全日本大学空手道選手権大会に、大商大は男子組手でベスト8の成績を残した。

10月11日(祝)の全関西大会は優勝をねらいながらまさかのベスト8で終えた大商大男子。全日本大会でのリベンジを誓い、急ぎよ合宿を実施するなど以前よりも増して厳しい練習を重ねてきた。

5名で戦う団体戦、大商大は1、2回戦を5-0、4-1で勝利したが、「最大の山場は準々決勝となった。」

3回戦の駒澤大戦は2勝2敗1分で、勝数でもポイント数でも並び、代表戦が適用され松本卓也(商学3年)(開新高)が勝利して準々決勝へ。そして昨年の覇者帝京大との対戦となった。

3人目が終わった時点で0勝2敗1分。残り全に勝利をしないとけないところか、ポイント差もつけないければいけないという苦しい展開。後をたくされた大将の松本には大きなプレッシャーがのしかかった。「勝つことだけを考えた」という松本は「プレッ

シャーはあったが、厳しい練習を乗り越えてきたという自信があったし、帝京大には2年連続負けていたので、何かなんでも勝ちたかった。みんなの代表で出ているという思いがあり、恥ずかしくない試合がしたかった」と語った。結果勝利をおさめ、ポイント差で帝京大に勝利した。

準決勝で京産大に敗れはしたものの2-3と惜敗。日本一を目標としていただけに悔しい思いは残ったが、全関西大会での敗退から気合いで這いあがった空手道部は、この大会でまた一段と強くなった!

全日本インカレ **4位**

バレーボール部

第63回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学選手権大会



来年必ず
We'll be back!

西日本大会では愛知大に敗れてベスト8止まり。関西秋季リーグでは予選を1位で通過しながら大産大に勝つて2位。その悔しさは部員の全員に火をつけ、その後の大阪府大会、関西選手権での優勝と、徐々に調子を上げてきた大商大は完全復活調。いよいよ平成22年11月29日(月)から東京体育館などで開催されたバレー全日本インカレにのぞんだ。

予選リーグ、決勝トーナメントの3回戦までを順調に勝ち上がり、まずは愛知大に勝つことを第一の目標に掲げていた大商大は12月2日に4回戦で愛知大と対戦。1セット目は失ったものの、その後は愛知大を圧倒。西日本大会で敗れたのが嘘のように3-1で勝利し、ベスト8入りを果たす。準々決勝ではそのままの勢いで東亜大に3-0で快勝。平成13年度に準優勝して以来、9年ぶりのベスト4入りを果たした。

越猪竜之介(商学4年)(鎮西高)主将が「ここまで来たらもうふっかついていくしかない」と臨んだ準決勝では、昨年の覇者東海大を倒して勢いに乗る順天堂大と対戦。平均身長で大商大より8cmも高い

同大に、圧倒的な高い位置からのスパイク、サーブ、ブロックを決められたが、大商大も得意の確実なレシーブ、コンビプレーで応酬。しかし1-3と力尽きた。

3位決定戦にまわった大商大は、インカレ最終日のセンターコートで筑波大と対戦。5セット中3セットでジュースになり、3セット目は34-32までもつれこむなど、大健闘したがわずかに及ばず、セットカウント2-3で敗れ4位となった。

中嶋英喜監督は「私も選手たちも紙一重のところだったという実感がある。身長で及ばなくても、拾ってつなげる大商大の得意なプレイを随所に出すことができた。練習でやっていたことがしっかりと出たので、残念ではあるが悔しいはない。よくやった」と毎日死闘を繰り返した大商大選手をねぎらった。

4年生はこの大会で引退したが、3年生以下の部員たちは早くも「来年必ずセンターコートに戻ってくる」と以前よりもさらに大きな目標を持つことができた。

4年生が最後に大きな財産を残し、後輩に引き継いだバレーボール部。古豪完全復活を目指せ!

- 関西大学バレーボール秋季リーグ戦 準優勝
敢闘賞 越猪 竜之介(商学4年)
ベストサポーター賞(団体)
- 関西バレーボール大学選手権大会 優勝
全日本バレーボール大学選手権大会 4位

すぽせんNEWS

商大スポーツセンターの旬の情報をお届け!

加藤ゴールキーパー コーチ来たる!

2010 FIFA World Cup



大阪商業大学では毎年校友顕彰式典で建学の理念に適った卒業生に貢献を果した卒業生に対してその功績を称えて表彰しています。

今年度は特別表彰で、2010年FIFAワールドカップサッカー南アフリカ大会にゴールキーパーとして選出され、日本代表のベスト16入りに大きく貢献された加藤好男さん(昭和55年)

2010年度、 全国大会壮行会を4度開催。

体育会本部主催で今年度初めて開催された全国大会壮行会は、11月17日(水)に第4回目を迎え、今年度は終了しました。これは全国大会に



のぞむスポーツ部の学生を応援する目的で開催されたものです。

今年度企画部長として壮行会を行った石川直弥くん(経済3年)は、「どうすればスポーツ部のみんなを応援できるか」ということを考え、それだけでなく、一般学生の人にも、スポーツ部の活躍をぜひ知ってもらいたいという思いで企画していました。回を重ねるごとにいろいろな工夫ができたと思う」と語り、来年度企画部長に就任し壮行会を担当する植松駿くん(経済2年)は「今年の経験をいかして来年度は規模を大きく、参加学生も増えてくれたら」と語っていました。



「第4回壮行会で応援したバレーボール部が全国4位、空手道部が全国3位の成績をおさめてくれて、とても嬉しかったです」と語り、

応援する側とされる側がひとつとなって「強い商大」を目指します!



皆さんはオフシーズンをどのように過ごしていますか?色んな意味で「オフシーズン」準備期間と捉えることができます。

オフシーズンは、シーズンを過ごした後の気持ちのリフレッシュ、「シーズンの反省」「課題の発見」「来期の目標設定」と進んでいきます。そして、その後、設定した目標に到達するためのフィジカル・身体の準備へと進んでいきます。

商大スポーツ 復活論

商大スポーツでは、開学40周年を記念して「復活論」をテーマに、今度も必死で取り組んでいます。

【今回のテーマ】**オフシーズンの過ごし方!**

【講師】**アスレティックトレーナー 山本 大輔**

具体的には、①ケガをした部分のリハビリテーション
②パフォーマンスアップのためのトレーニング
に分けられます。

リハビリテーション
シーズン中はある程度の時間が経過して痛みが引いてしまったり、原因が改善されない、もしくは落ちた能力が回復しないまま、すぐに練習参加してしまう傾向があります。そのため再発を

繰り返すという悪循環になってしまいます。いわゆる「ケガ」になってしまっているケガですが、何度も同じケガを繰り返してしまうのは本人のコンディショニング不足といえます。

過去に何度も経験があることですが、外傷にこそ障害にこそ「ケガ」にこそ中途半端に放置してしまっているケガというものは一番の大切な試合の前に再発、悪化するリスクが多々あります。

おそらく大切な試合を前に知らず知らずのうちに気合が入り、いつ

トレーニング

対象 **パフォーマンスアップを考えている選手**

種類 **ウェイトトレーニング**

- 筋肥大(筋肉を大きくする)
- 筋力向上(今の筋肉の大きさ、量で出せる力を向上させる)
- パワー向上(筋肉が出す力とスピードを向上させる 例:ジャンプ力)
- 筋持久力向上(繰り返しの動作を続ける能力を向上させる)

フィットネストレーニング

- 全身持久力の向上

SAQトレーニング

- スピードの向上
- アジリティ(敏捷性)の向上
- クイックネス(素早さ)の向上

リハビリテーション

対象 **シーズン中、チーム事情などの様々な理由で無理をして身体の不調を引きずったまま練習に参加したり、試合に出場していた選手**

種類 **慢性的な障害と呼ばれる怪我(1度のきっかけで痛めたものではなく、積み重ねて痛めたもの)**

- 野球、バレー、テニスなどのオーバーヘッド動作を行う種目に多い肩の痛み
- サッカー選手に多い足の甲の疲労骨折
- 全てのスポーツでおきる可能性の高い腰痛 etc...
- 肉離れや捻挫

最後に、それは全国一を決める大一番かも知れませんが、それは関西リーグ制覇をかけた大事な一戦かも知れません。リーグ昇格の入替戦かも知れません。そういった大切な局面で最高のパフォーマンスを発揮するために、ケガのために力が出せないために悔しい思いをしないために「今出来る準備リハビリテーション」を頑張ってください!!

今日から強化!

This is Cool Down

またスポーツ推薦入試ではなく一般入試で入学したことや、投手としては不利な身長の高さ(173cm)もまた彼の異色さを際立たせているといえます。小学校2年生で始めた野球人生はすでに14年を超えますが、



「野球が楽しいという思いだけでなく、しんどいことも多かった」と振り返る福山くん。それらを具体的に言葉に出さず、乗る越えた結果、横浜スカウトが「マウンドでは身長よりもっとも大きく見えた」と語っていた通り、彼を大きく見せているのかもしれない。

福山くんはインタビューでもプロへのプレッシャーや気負いはまったく感じられませんでしたが、それは「プロに行くことが目標ではなく、活躍すること、活躍すること、活躍することが目標。これからがようやくスタートです」と語っていました。

横浜ベイスターズに 入団

10月28日、テレビの画面を食い入るように見つめていた目が、名前を呼ばれた瞬間にほころび、「ホッと」と素直な感想を語りました。商大硬式野球部の福山博之くんがプロ野球の扉を開いた瞬間でした。

関西六大学リーグでは1年生の秋季からベンチ入り。通算46試合に出場し17勝10敗。ベストナインなどにも選出され、4年生の秋季には最優秀投手賞に輝くなど、関西六大学リーグを代表する投手の一人です。しかし、横浜ベイスターズが福山くんを評価したのは実はこのころ。この投手はまだまだのびると判断された結果なのです。

「この福山投手は高校時代は福山内野手。大学入学後に投手に転向したという異色の経歴を持っています。」

硬式野球部：経済4年(大東高) **MVP その1**
福山博之さん

編集後記

空手道部とバレー部が全国大会の会場で試合終了後、即、泣いていた。本人たちは悔しかったのだろうけど、今まで見たことがない強さだった。強い、実に強かった。

それでも優勝できなかったということは、やはり相手は商大よりも勝っているのだろう。

「商大魂」「商大魂」と言っているが、その定義はない。もしあるとするならば、ハンデをもっともしい根性と勝負、ハンデを逆にかいて闘う姿、試合後号泣できる心と、その環境、なのかもしれない、2つの部を見て思った。

今回の3位と4位。今後彼らが優勝したとしても、私はこの日のことを一生忘れない。

すぽせん MVP

スポーツセンターが勝手にMVPを進呈するこのコーナー。今回は、**スペシャル2連発!!**

選手を支えるという経験

「同期の中でも自分だけできていなくて叱られて、何度も叱られてきました。しかし同期の友人に励まされ、また先輩から「俺ががんばらなさい」と言われても「俺ががんばらなさい」と思っていたら、得難い経験をしていくことになると思います。」

MVP その2
山田雄作さん
空手道部・公営4年(城南高)

「3位という実績よりも、チームがまとまり強くなってくると、監督と出会うことができた。それがよかった。」

「空手をしていて、途中で会えなかった経験をしてきた。空手道部の後輩に、そして全てのスポーツ部の後輩たちにメッセージを語ってくれました。」

山田くんが空手道部に入部したのは、もちろん「強くなりたかった」から。オープンキャンパスで大商大を訪れ、その日練習はなかったものの、空手道部清水水基監督と話をするのができ、心は「一気に大商大に」。どうせやるなら強いところで空手をやりたいという思いで3月から練習に参加した山田くんは早速自分の考えが甘かったことを思い知らされました。日本の練習量といわれるだけあって、厳しい、そして激しい練習。高校時代とはまったく違う練習環境と、何よりもみんなが練習をしてい



最終学年の今年度は実行委員長に。すべての仕事に重い責任を感じました。やりがいのある仕事だと感じ、緊張感をもって仕事に取り組みました。終わってしまえば、すべて楽しんで仕事できたという思いでいっぱいになっていきました。

空手道部の思い出は数多くありますが、一番をあげると今年度の全日本3位です。全関西大学選手権で実力を発揮できなかったことから急ぎ、試合前合宿を実施。出発の日まで練習を続けました。この合宿でみんなの気持ちが高まりました。全国大会では厳しいブロックに入りながら大方の予想をくつがえして、昨年優勝の帝京大学を撃破。全国第3位に輝きました。